

自治体・地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業・研究

「食育推進ボランティア」（2022年4月～2023年3月）

i 連携している自治体・地元産業界等の組織名称

山梨県

山梨県と山梨学院大学・山梨学院短期大学は、県民の健康及び栄養教育並びに食育の推進に関する事項について協力し、いきいきと豊かに暮らせる社会の実現とともに、地域振興を図ることを目的に、2009年11月26日付で「健康・栄養・食育」に関する連携協定を締結している。連携内容は以下のとおりである。

- ① 県が進める県民の健康づくり事業
- ② 栄養・健康に関する調査研究
- ③ 学生による地域食生活改善活動
- ④ 食育ボランティア活動
- ⑤ 山梨県産の食材を用いたメニュー開発及び観光振興
- ⑥ 健康、食育分野等の各種講座への講師相互派遣
- ⑦ その他

ii 連携している自治体・地元産業界等の中期計画・事業計画

令和3年度～令和7年度 第4次やまなし食育推進計画

本学との連携事業・研究は、「基本方針1 あらゆる場面での食育の推進（2）学校・保育所等における食育の推進 ④大学と連携した食育推進」に関わるものである。

iii 当該連携事業・研究における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標

2005年6月に食育基本法が制定され、山梨県では、同法に基づき、やまなし食育推進計画（2006～2010年度）及び第2次やまなし食育推進計画（2011～2015年度）、第3次やまなし食育推進計画（2016～2020年度）を策定し、15年にわたり、食育を推進してきた。様々な取組が一定の成果を上げる一方で、中学校3年生や20～30代の若者が朝食を食べる割合が低下する等、特に若い世代の食習慣についての課題も明らかとなった。2020年3月には、「食品ロス削減の推進に関する基本的な方針」が閣議決定されたが、食品ロス削減も新たな課題である。課題解決に向けて、本学では、毎年度、食育推進ボランティア活動を軸とした取組を行ってきた。2022年度は、食育推進ボランティア講座（山梨県県民生活安全課主催）に本学2年生が出席し、山梨県食育推進ボランティア登録者として登録を行った。山梨県との連携協定により、山梨県から食育推進ボランティアを保育所・幼稚園・認定こども園他に募り、山梨県を窓口とし、本学への依頼を受け、依頼先と内容、実施時期などを相談の上、依頼先に要望に合わせた内容の映像を作成し依頼先で園児たちに映像学習を行い、保育者の感想や意見、改善すべき点や子どもたちの様子などの回答をいただき学生と振り返り今後の課題を明確にすることを目標とした。本活動を行う中で、自ら社会に貢献する力、マナーやコミュニケーションなど社会人として必要な力を身に付け、豊かな人間性を培うことも目標の一つと位置付けた。

iv iii の課題の解決に向けて実施する取組の内容

上記の目標を達成するために、次の取組を実施する。取組は、2022年4月に開始し、2023年3月に終了した。食物栄養科2年生は、ゼミごとにレシピの作成、レシピを動画にした食育動画の作成、児童養護施設の児童を対象とした「自立に向けた食育教室」の企画及び運営（2回）、また、イベントなどに参加し食育活動を実施した。保育科では2グループを編成し、食育に関する手洗いの必要性や方法、マナー、好き嫌い、栄養素について指導案作成、教材づくり、練習、映像撮り、映像編集を行い、グループにおいて協調することについても学ぶことができた。また、映像を依頼先の子どもたちに観てもらおうこと、保育現場の先生方の所見から、良い点や今後の課題を見出す機会となった。

v 連携事業・研究の計画・実績・結果

2022年度の活動実績は以下の通りである。

年月日	内容
2022年4月	連絡協議会を実施し、2022年度の食育推進ボランティア活動を軸とした取組について、目標・方法・手段等取組内容を山梨県県民生活部県民生活安全課食の安全・食育担当者と検討した。
2022年5月19日	山梨県県民生活部県民生活安全課の講演「地域貢献活動（食育推進ボランティア）とは」を学生が受講し、「若い世代の食習慣」や「食品ロス」といった地域課題について学び、山梨県食育推進ボランティア登録者としての活動を認められた。
2022年6月9日	食育推進ボランティアの具体的な内容について理解を深め自らの行う活動をどのように展開するか、今後の日程の理解し活動をスタートさせた。
2022年9月	保育科が作成した食育映像を依頼先に送付。 ※ 2022年度は6つの保育所・幼稚園・認定こども園からの依頼があり、学生の作成した22の映像教材を依頼の内容に分けて送付した。
2022年11月～12月	依頼先保育者の所見および幼児の様子をもとに、「若い世代の食習慣」や「食品ロス」の課題に対する取組としての本取組を振り返った。 <u>○依頼先からのコメント：「若い世代の食習慣」「食品ロス」の課題に関わる部分（抜粋）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ DVDによる食育活動だったが、内容が会話形式になっていたのが良かった。アニメーションや劇のような、子どもたちが楽しめる工夫が多くあったため、学びながらよく笑う子どもたちの様子がみられた。ボランティア制度を活用したことで、子どもたちの食への関心を深めることが出来た。 ・ 子どもたちが山梨県の郷土料理である、ほうとうの作り方を知る良い機会になりました。特に、動きのあるアニメーションだったこともあり子どもにもわかりやすかったと思います。 <u>○学生からの意見：「若い世代の食習慣」「食品ロス」の課題に関わる部分（抜粋）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育活動のボランティアでは、自分はもちろん家族や友達の食について見直すことができた。誰かのためのボランティアだとしても、必ず自分のためになっているのだということが分かった。 ・ 食育活動ボランティアでは、食べ物の三色食品群についての粘土アニメーションを作成することで、食事について子どもたちにどのように教えることが良いのか考えた。作成した自分たちも食事について学ぶことができた。